

2025年4月発行

東大阪市指定文化財 旧河澄家 ニューズレター

きやづみ家



鬼瓦を鬼と呼ぶ勿れ 棟（胸）の内はやさしいよ

離れ屋根南側 鬼瓦

特集／企画展示

河内の古民家御財印めぐり展

pick up!

菊花展

やさしい暮らし 昔にならう一庭より思い繋べー

歴史コラム

日下の嘶「善根寺浜と近世河内の舟運」

河澄家の自然 編笠百合、貝母



旧河澄家 指定管理者 株式会社アスウェル

展示・イベントのご案内



展示・イベント

「端午の節句展」

2025年4月19日(土)～2025年5月6日(火・祝)

端午の節句関連イベント

「鯉のぼりけん玉作り&コンサート」

2025年4月20日(日)

「浮世絵展」

2025年5月10日(土)～2025年6月8日(日)

講演「浮世絵に見る風景と暮らし」

2025年5月11日(日)

「論語の素読会」

毎月第2・第4土曜日

※休館日・開場時間等はP12「イベントカレンダー」にてご確認ください。



かわすみ家

2025
Apr.
vol.

31

東大阪市指定文化財 旧河澄家 ニューズレター

目次

04 特集 河内の古民家御財印めぐり展

御財印めぐりの紹介と解体調査で発見された刻印が付いた屋根瓦について

06 日下の嘶 善根寺浜と近世河内の舟運

江戸時代に日下村の船着き場として使われた善根寺浜と剣先船のお話

08 イベントレポート

歴史講座 河内の勤王に迫る

秋季ハイキング 日下の街で文学散歩

秀鳳書の教室 わくわく書道展 / デザイン書道で新春のカレンダーづくり

新春大道芸公演と昔遊び

サブローごまを作ろう

近畿大学峰滝ゼミ REPORT 焼き芋ブリュレとミノムシけん玉づくり

古民家で餅つき & クリスマス工作

10 Pick Up

菊花展

やさしい暮らし 昔にならう 一畑より思い繋ぐ

12 イベントカレンダー



旧河澄家の自然

アミガサユリ

貝母、編笠百合 / バイモ

ユリ科バイモ属 半蔓性多年草

アミガサユリ(バイモ)は、北西に位置する蔵と主屋の間にある裏庭に静かに咲きます。花期は3月下旬から4月中旬頃で、花は下向きに咲き、淡黄緑色の釣鐘型で網目模様があるのが特徴です。楚々とした風情から茶花や切り花としても重宝されてきました。控えめに咲



茶花や切り花としても
<姿が侘びた雰囲気があうのかもしれません。

薬草として

昔から使われてきた薬草です。土の中にある球根(鱗茎)を乾燥させて用います。漢方では、貝母(バイモ)と呼ばれ、特に咳を鎮めたり、たんを切る薬としてよく使われています。



うつむき静かに咲く

河内の古民家 御財印めぐり展

河内地方の古民家十二軒で御財印の頒布が予定されています。（令和七年四月時点）

■東大阪市

旧河澄家、鴻池新田会所、
日井上家住宅（非公開）

■八尾市

川中家住宅と屋敷林、藤井家住宅、
安中新田会所跡 旧植田家住宅、
萩原家住宅（茶吉庵）

■富田林市

安田家住宅（住宅内部非公開）

■柏原市

羽曳野市

■河内長野市

岩根家住宅、旧杉山家住宅



展示風景 ザシキにて
「河内の古民家御財印めぐり展」



御財印めぐりの冊子
頒布しています

「河内の古民家御財印めぐり展」を令和七年一月二十五日～一月十六日の期間で開催致しました。会場では、旧河澄家の歴史と変遷の紹介として、解体調査で発見された刻印が付いた屋根瓦を始め棟札や、江戸時代に描かれたとされる屋敷絵図の展示に併せ、大阪府登録文化財所有者の会様のご協力による、河内の古民家十一軒の御財印と建物解説、写真を紹介致しました。

【御財印めぐり】について

「御財印めぐり」とは、各地で大切に継承されてきた文化財などのデザインを表象した「御財印」を集めてめぐり、その地域の人々とのふれあいや文化・歴史を楽しみながら未来につなげる応援の旅です。大阪府登録文化財所有者の会が中心となつて「御財印めぐり」の普及活動を推進されており、令和七年四月以来、新たに二十四件が参加を予定し合計百三十ヶ所以上で頒布が予定されています。また登録文化財・歴史的建造物の魅力をより多くの人に感じていただくために御財印めぐり関連事業・協力事業として様々なイベントも企画されています。

御財印めぐり詳細・建物情報は「大阪文化財ナビ」サイトをご覧いただけます。
<https://osaka-bunkazainavi.org/>

瓦に刻印若しくはペラで文字書きがされた文字瓦の歴史は古く、平城宮跡出土の物まで



刻印瓦「私瓦八」
棲鶴樓庭園 西側築地塀



拡大
「私瓦八」



離れ屋根南側 鬼瓦



鬼瓦 展示風景 ザシキにて



瓦の刻印「私瓦八」
鴻池会所跡



瓦の刻印「私瓦八」
北田家住宅



棲鶴樓屋根北側 鬼瓦

確認できます。文字内容は、製作官・瓦師・生産地・人名が挙げられます。平成十七年度から着手された解体・保存修理により、主屋の当初の瓦は残存せんが棲鶴楼の瓦は当初と思われる物が大半を占める事が分かりました。そのうち、刻印瓦が数種類発見され、その刻印は生産地と生産者が刻まれています。主屋、棲鶴楼と共に通して確認できた刻印は「うつまさ」「植瓦喜」「植瓦庄」「吉瓦熊」「私瓦久」でした。今回は「私瓦久」「植瓦庄」「加瓦八」に加え、鬼瓦、軒瓦、丸瓦を展示致しました。その一つ、「私瓦久」は棲鶴楼西側上屋の平瓦及び南側下屋の軒瓦で確認されました。同じ刻印の瓦が交野市の北田家住宅でも確認されました。「交野市私部」で作られたようです。北田家の敷地内には「文政五年午歳河州交野郡私部村瓦師大矢八平衛」との刻印がある瓦が見つかっています。(重要文化財北田家住宅修理工事報告書)より)旧河澄家にも「私瓦八」(西側築地塀)、また別に「私瓦人」(棲鶴樓南側)の刻印が確認されました。私部辺りには多数の瓦師がいたようです。文政五(一八二三)は棲鶴楼改築時の天保六年(一八三五年)より時代は遡りますが、北田家では修理前に葺かれていた瓦の流用があると指摘され、また「重要文化財 旧鴻池新田会所修理工事報告書」によれば、瓦師の大矢八平衛は世襲の名前可能性を記しています。旧河澄家も同じ瓦師から購入していたと考えられます。

—歴史コラム—



豊かな自然と文化の街、日下
生駒山麓へ日下地域、河澄家の
過去から現在に至るまでのおはなし

善根寺浜と近世河内の舟運

善根寺五丁目の東高野街道と大川が交差する地点には江戸時代に善根寺浜（ぜんこんじはま）という船着き場があり、大阪と河内の村々を結ぶ交通機関として在郷剣先船（ざいごうけんさきせん）という舟を使つた舟運（しゅううん）が重要な役目を果たしていました。現在も善根寺浜があつたとされる地点には水上交通の守り神である金毘羅大権現（こんぴらだいごんげん）と刻まれた石灯籠が残され、東高野街道沿いの大川に架けられた橋は「浜の



燈籠柱 金毘羅大権現

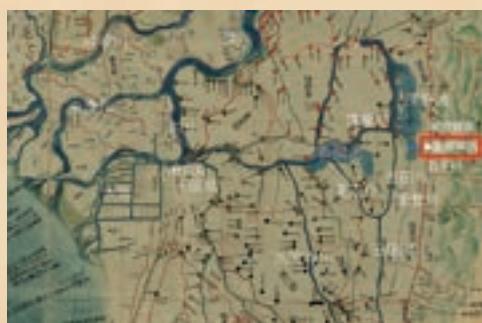


善根寺浜金毘羅燈籠

河内地方の舟運に大きな影響を与えたのが宝永元年（一七〇四年）に行われた「大和川の付け替え」ですが、付け替え前までは日下村や隣の中垣内村等の西側には大きな「深野池（ふこのいけ）」が広がっていました。

大和川付け替え前の元禄五年（一六九五年）の資料によると、川沿いの河内の二十三村は在郷剣先船を村として所有し、幕府からその所有を公式に認められていました。在郷の各村はこの在郷剣先船を使つて年貢米や田畠の肥料等農業用途の運搬に加え、洪水の際は船で人馬の行き来をして

橋」と呼ばれています。また金毘羅燈籠から東高野街道沿いの北側には、「楯津濱（たてづはま）」と刻まれた石碑が建ち、神武天皇東征の折このあたりを「楯津」と名付けたという記紀の説話に因んで設けられたもので、神武東征の太古よりこのあたりは河内湖東端の船着き場として舟運に使われ続けてきた土地でした。大川は生駒七谷の一つである車谷からの谷水を集めて善根寺浜から恩智川に注ぎ、その下流では寝屋川に合流する川です。江戸時代の享保時代の車谷には水車五基が稼働していたという記録があることからも、近世には今と比べて水量が多かつたものと考えられます。



近世初頭大阪の地形



楯津濱碑



善根寺浜 浜の橋

いました。その船の数は、合計七十三艘にのぼり、その中で日下村は一隻、隣の植附村は二隻を所有していました。剣先船は船首が剣の先のように尖った形をした川船で、古剣先船、新剣先船、在郷剣先船、井路剣先船の種類がありました。初めはその大きさに基準はなかつたようですが、元禄三年（一六九〇年）に長さ十一間三尺（約二十二m）、幅一間二尺

（約二二m）、深さ一尺四寸（約〇・四m）と定められました。

但し井路川剣先船は幅四間から六間の狭い用水路を行き来するため、長さ七間三尺（約十三m）幅四尺五寸（約一・三m）の小船を使用しています。しかし宝永元年（一七〇四年）の付け替え工事の後には大和川水系の水が深野池まで流れなくなり、時間が経つにつれて次第に水が引いて深野池の水域はかなり狭まつて行きました。

それでは付け替え後の河内の村々での舟運はどうなつていたのでしょうか。記録によると在郷剣先船の数は享保五年（一七二〇年）には二十五艘と約三分の一に減っていますが、日下村、植附村は一艘ずつ所有していたことがわかります。舟運の状況については大和川付け替えから二十四年後の享保十三年（一七二八年）春三月八日の日下村庄屋森長右衛門の日記（『日下村森家庄屋日記』享保十三年度、平成十七年三月日下古文書研究会発行）からも知る翌三月九日明け四ツ（朝十時）に善根寺浜の船着き場に鴻池善兵衛一行を出迎えるために村年寄りたちを行かせ、船で予定通り到着後に一行を花見の名所鷺尾山興法寺（わしううざんほうこうじ）まで案内させており、善根寺浜は付け替え後も使われていたことが分かります。

更に時代が下つて大和川付け替えから九十七年後の享和元年（一八〇一年）に発行された秋里籬島著による観光ガイドブックである『河内名所図会』には、善根寺浜から少し北に位置する野崎観音に多くの人が舟で参詣する様子が描かれています。剣先船よりはかなり小型の屋形船などが絵で描かれていますが、大坂天満橋にある「八軒屋浜」か

ら寝屋川を遡つて徳庵・住道を経由して幅七メートルほどの井路川を通り「観音浜」（現大東市深野五丁目）に着き、そこから専応寺に参つた後で野崎観音を訪れる参詣ルートが開けていたと伝えられています。

村名	船数
西庄町船村	4
西井村	1
里本村	1
諸御通御船村	1
上小原村	1
吉見村	1
吉田村	2
吉瀬村	8
井内町水道村	1
吉井村	1
日下村	1
吉田町口村	4
三郷村	1
計	28

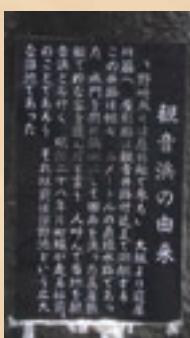


剣先船

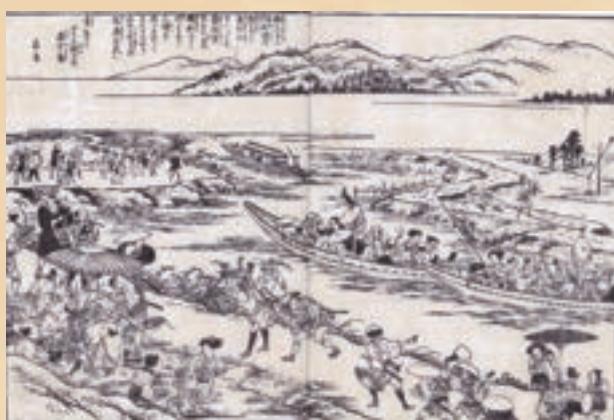
村名	船数
吉田町今井町	1
吉井村	1
里本村	1
諸御通御船村	1
吉見村	1
吉瀬村	1
吉田村	1
吉田町	1
吉田町口村	1
三郷村	1
計	11

在郷剣先船持村船数 元禄5年

在郷剣先持船数 享保5年



観音浜の由来



河内名所図会 野崎詣

旧河澄家にて開催しましたイベント&展示のご報告。
地域の方々と触れ合いながら様々な催しを致しました。
詳しいイベント情報はホームページにも掲載中です。

Kawazumi Report



天誅（忠）組記念館館長 草村 克彦氏



歴史講座の様子 主屋にて

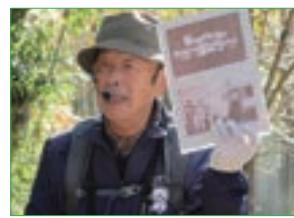
歴史講座

河内の勤王に迫る

二〇一四年十一月二十四日（日）開催



「紫蓮尼 墓碑の拓本」
資料の解説をする川向 章介氏



「日下新池 健康道場」
当時の様子を解説



書道や日本文化のよさを感じてほしいと話す深川 秀鳳氏



ナンドにて 書道作品展示

天誅（忠）組記念館館長の草村克彦氏をお招きし、「郷土の歴史講座 千四百年受け継がれた河内日下の勤王に迫る」と題する講演会を開催いたしました。当日は定員を上回る参加者が集まり関心の高さがうかがえました。草村館長からは、明治維新のさきがけとなる「天誅組大和義挙」においてこの河内にも天誅組の志士達がいたこと、そして河澄家十九代当主雄次郎もその一人であり、古代日下には天皇家を支えた氏族がいたと伝えられていること、河内における幕末の勤王思想に影響を与えた思想家達、などについて解説いたしました。参加者の皆様からは、ここ中河内で天誅組参加はびっくりした、知らなかつた事が詳しい説明でよくわかつた、とても興味のあるお話で大変勉強になつた、などい機会となりました。

秋季ハイキング

日下の街で文学散歩

二〇一四年十一月一日（日）開催

秀鳳書の教室

わくわく書道展／書道体験

二〇一四年十一月十一日（木）～

二〇一五年一月十三日（祝）開催

日下は一・五キロ四方の内に数多の著名な文学者に縁の有る街です。今回の秋季ハイキングでは、平城宮跡や東大阪でボランティアガイドをされている川向章介氏にご案内いただき、稻荷山遊園跡（谷崎潤一郎）・日下出身の儒学者、生駒山人の墓碑・紫蓮尼墓碑（上田秋成）・正法寺跡（上田秋成）・丹波神社（上田秋成）・日下新池 健康道場跡（太宰治）を巡り、秋晴の空のもと神社や旧跡をたどることができました。参加の皆さんには、川向氏のご自身で収集された資料を片手に、史実に基いた逸話を軽妙洒脱な調子で話される説明に引き込まれ、「地元の歴史を知ることが出来て良かった」「紅葉の美しい景色の中、時空を超えて古人と会えた気がした」「説明がわかりやすかった」など歓びの感想をいただき、心地良い余韻の残る行事となりました。

今年で第四回目となる「秀鳳書の教室わくわく書道展」は、日下在住の書家で書道教室を開く深川秀鳳氏の作品4点と、生徒たちの作品53点が並びました。旧河澄家主屋に作品を展示することを目標に、幼稚園児から9歳までの生徒たちは日々練習を重ね、丁寧に心を込めて書かれていたそうです。静かで趣のある空間に並んだ作品は、力強くて、元気で、美しさがあります。会期中、書道体験として、筆を使って「デザイン書道で新春の力レンダーブル」をお楽しみいただきました。深川秀鳳氏のお手本をみながら、形や余白、構成にもこだわり、真剣に取り組んでいる姿がとても印象的でした。世代を超えて書に向き合う姿に、あらためて書道の奥深さと、地域の繋がりのあたたかさを感じる時間となりました。

新春大道芸公演と昔遊び



サブローごまをつくろう
一〇五年一月二日（土）開催

旧河澄家HPイベント情報ページ→ <http://www.kyu-kawazumike.jp/eventinfo/>
Facebook情報ページ→ <https://www.facebook.com/kyukawazumike>
Twitter情報ページ→ https://twitter.com/kyu_kawazumike
Instagram情報ページ→ https://www.instagram.com/kyu_kawazumike/

新年が明けたばかりのこの日、孔舎衛校区福祉委員会の主催、近畿大学峰滝ゼミと旧河澄家が共催で、地元の「河内小梅」一座によなわれました。「河内小梅」一座の皆さんは東大阪市を拠点にして八房流南京玉すだれの芸を全国で公演されています。この大道芸は「八房流玉すだれ」という長さ三十二センチ、五十六本の竹を糸でより合わせた重さ五百グラムのすだれを持ち、唄にあわせて踊りながらすだれを変化させて山、橋、魚、しだれ柳、などに見立てる技（わざ）を披露するものです。また傘回しや皿回しと参加者が参加する皿回し体験などが行われ、合計三回の公演で合計百人以上の参加者達は夫々の技が披露される度に拍手を送つて公演を楽しんでもらいました。また孔舎衛校区福祉委員会と近畿大学峰滝ゼミの皆さんが運営する昔遊びのコーンでは、お子様連れの参加者の方々を中心に、こま回し、羽根つき、カルタ、福笑い、的当てや輪投げなど昔ながらの色々な遊びを体験してもらい、参加者全員にお餅も配られ、日本の伝統芸能と文化に触れる良い新春の一日となりました。



河内小梅一座「八房流玉すだれ」



つくることの大切さ、
楽しさを伝える磯田 武士氏



大好評の
焼き芋ブリュレ



可愛い雪だるまづくり

新年が明けたばかりのこの日、孔舎衛校区福祉委員会の主催、近畿大学峰滝ゼミと旧河澄家が共催で、地元の「河内小梅」一座によなわれました。「河内小梅」一座の皆さんは東大阪市を拠点にして八房流南京玉すだれの芸を全国で公演されています。この大道芸は「八房流玉すだれ」という長さ三十二センチ、五十六本の竹を糸でより合わせた重さ五百グラムのすだれを持ち、唄にあわせて踊りながらすだれを変化させて山、橋、魚、しだれ柳、などに見立てる技（わざ）を披露するものです。また傘回しや皿回しと参加者が参加する皿回し体験などが行われ、合計三回の公演で合計百人以上の参加者達は夫々の技が披露される度に拍手を送つて公演を楽しんでもらいました。また孔舎衛校区福祉委員会と近畿大学峰滝ゼミの皆さんが運営する昔遊びのコーンでは、お子様連れの参加者の方々を中心に、こま回し、羽根つき、カルタ、福笑い、的当てや輪投げなど昔ながらの色々な遊びを体験してもらい、参加者全員にお餅も配られ、日本の伝統芸能と文化に触れる良い新春の一日となりました。

豆玩舎ZUNZO（おまけやズンゾ）協力によりサブローごま作りを開催致しました。「サブローごま」とは「折る刃式カッターナイフ」を発明したオルファ創業兄弟のおひとり、岡田三朗氏の開発した独楽で、ビー玉を軸に自由に装飾した厚紙を貼つただけのシンブルですが、よく回る独楽です。参加者はサブローゴマの表面に思い思いの絵を描いたり切り抜いた色紙を貼り付けたりして独自のコマを作り上げました。回転するコマの色模様を楽しむばかりでなく、上から紙吹雪をふりかけ、飛び散る様を満足気に見る子もいて、えべっさん寒波を引きずる底冷えのする室内でしたが、楽しく且つ「子供の発想は無限だ」と実感する日となりました。

峰滝ゼミ

近
大
学
KINDAI UNIVERSITY



臼と杵を使って餅つき

菊花展

昨秋の美しさ、

今ふたたび



形を整え、美しく育て上げます



花びらに白い綿をふわりとのせてつくる御紋章菊

令和六年十一月一日（金）～十一月二十四日（日）の期間、日下地域の菊花愛好家有志の会の皆様が育てた菊花を展示する「菊花展」を開催致しました。十一月の行事を今頃取り上げる事はピンぼけですが、菊花愛好家の方々の熱意を皆さんにお伝え致したく、敢えてご紹介申し上げます。

昨日の天候不順で開花が遅れ昨年は取り止め、本年は十日遅れての開催となりましたが、旧河澄家主屋の軒先に展示された菊鉢大小合わせて約四十鉢をご覧に、多くの方々が来られました。かつて日下地区には、五十人以上の菊花愛好家おられ数々の展覧会に出品して、多くの栄誉に浴してきた歴史があります。現在、愛好家の方は少なくなってきたものの、それでも熱心に菊花を育てておられます。

今回は、一重咲きで、平開する大輪の菊で、舌状花の数が十六枚程度、舌状花が円形で隙間なく咲く一文字菊を展示して戴きました。一文字菊は、天皇家の紋章に似ているので御紋章菊とも呼ばれ、花弁の色には、白、黄色、橙、薄紫紅色等があります。花を支

菊の香にくらがり登る 節句かな
芭蕉

令和六年十一月一日（金）～十一月二十四日（日）の期間、日下地域の菊花愛好家有志の会の皆様が育てた菊花を展示する「菊花展」を開催致しました。十一月の行事を今頃取り上げる事はピンぼけですが、菊花愛好家の方々の熱意を皆さんにお伝え致したく、敢えてご紹介申し上げます。

昨日の天候不順で開花が遅れ昨年は取り止め、本年は十日遅れての開催となりましたが、旧河澄家主屋の軒先に展示された菊鉢大小合わせて約四十鉢をご覧に、多くの方々が来られました。かつて日下地区には、五十人以上の菊花愛好家おられ数々の展覧会に出品して、多くの栄誉に浴してきた歴史があります。現在、愛好家の方は少なくなってきたものの、それでも熱心に菊花を育てておられます。

菊の歴史を繙けば平安期に中国より伝來の菊水伝説がやがては重陽の節句に欠かせない花として定着、松尾芭蕉が暗峠にて詠んだ歌の通り不老長寿の祈りをこめた花となりました。今も尚、菊が人々を引き付ける魅力は何か。それは昔（いにしえ）よりの伝承に加え、育てた人の惜しみ無く注がれる愛情の現れが故と云えます。



古民家に咲き添う、菊景

一年を通じて繊細なケアを必要とする菊栽培
菊を大切に育てる川上 朝次郎さん日々の丹精な手入れで見事な彩りの菊を
咲かせてくれる藤井 滋さん

ひだまりの彩り菊

えるため、花を円形で厚手の白紙で支え、花びらが綺麗に開くよう間に綿を挟む等、愛好家の方は旧河澄家まで毎日足を運んで来られました。聞けば「菊は一年中手をかけないといけない。水や肥料を施し、葉を間引き、花を整え、花びらを間引くなど、ほぼ一年中、世話が必要」と言います。

え、花びらが綺麗に開くよう間に綿を挟む等、愛好家の方は旧河澄家まで毎日足を運んで来られました。聞けば

やさしい暮らし 昔にならう

庭より思い繋ぐ

うららかな季に咲く花

旧河澄家の庭では、季節の移ろいとともに、万葉集にもうたわれた花々がそつと姿を見せてくれます。この春は、アンズ、スミレ、アセビ、アミガサユリ、ナシ、カリン、イナダモモの花が庭を彩っています。

花地図ができるまで

二〇二三年、季節ごとの花を確かめながらつくった花地図「旧河澄家の自然と万葉集にうたわれた花たち」

はじめは、名前もわからない花ばかりでした。

庭を何度も歩いて記録を重ね、その中で万葉の時代に詠まれた植物たちが、今もこの庭に息づいていることにあらためて気付かされました。

庭に咲く草花や木々のことを知りたくて、二〇二〇年より「万葉の花講座」でお世話になっている華道家で、万葉の花研究家の片岡寧豊さんと一緒に、季節のたびに庭を散策し、何度も足を止めて観察しました。「きっとそうか

な」「たぶんそうだと思う」「あ、やつぱりそうだ」——

そんな風に、確かめるようにひとつずつ記録を重ねていきました。それは、季節の移ろいや小さな草花にも心を寄せていた、昔のひとたちのまなざしに、どこか似ているのかもしれません。

ぜひ、花地図を手に庭を散策してみてください。草花とともに、季節の移ろいを感じていただけたら嬉しいです。ご希望の方は、どうぞ事務所までお声かけください。花地図をお渡します。

こうして記録を続ける中で、植物の名前や特徴について、丁寧に教えてくださった片岡寧豊さんにも心から感謝しています。

長年、清掃等スタッフとして共に働き、イベントや展示の準備、今回の花地図作成や畑での栽培作業にも力を貸してくれた三人が、三月をもって退職されました。榧の木の管理、河内木綿や藍の花、紫陽花、ナンバンキセル、ヒトリシズカ等の育成にも携わり、自然への深い愛情と知識を教えてくれました。長い間のご尽力に感謝し、これらの日々が穏やかで健やかなものでありますよう、心よりお祈り申し上げます。

旧河澄家の自然と万葉集にうたわれた花たち

1. クチナシ
2. フライヤプラン
3. センショウ
4. マンジウ 万葉名【はなたちばな】
5. ナンテンジ
6. ラマスダレ
7. オモト
8. モモジ
9. 薄入りツバキ
10. シラン 万葉名【らん】【れい】
11. モチノキ
12. コケ
13. アセビ
14. カジ 万葉名【かし】
15. イチヨウ 万葉名【ちゆ】
16. ヤブラン 万葉名【やすすげ】
17. カヤ 万葉名【かや】
18. 椿 万葉名【むた】
19. 蓼 万葉名【よし】
20. ナンバンギセル 万葉名【おもひださ】
21. ススキ 万葉名【すすき】【をばな】【かや】
22. カリン
23. スノフレーケ
24. キンコウゼイ 万葉名【つきひとのかつ】
25. サムスピリ

26. エゾリハ 万葉名【ゆづる】
27. 原始ハス 万葉名【ははず】
28. セマキ 万葉名【やまと】
29. イヌマキ 万葉名【まき】
30. アミガサユリ 万葉名【はは】
31. アジサイ 万葉名【ありさわ】
32. ドクダミ
33. ユメ 万葉名【うめ】
34. ハラン
35. アンズ
36. ユズ
37. ヒカンバナ 万葉名【ひかん】
38. ミツバアケビ 万葉名【さのかた】【つづり】
39. スミレ 万葉名【すみれ】
40. ムラサキオタバ
41. シュロ
42. ラスノキ
43. カキノキ
44. ナシ 万葉名【なし】
45. スイセン
46. イナダモモ 万葉名【もも】
47. ピワ
48. イロハモジ 万葉名【かへるで】【もみ】
49. ネカン
50. ダイダイ 万葉名【あべたちばな】



1. 椿の花



23. スノフレーケ



22. カリンの花



19. 椿の花



13. アセビの花



10. アミガサユリ



6. ラマスダレ



28. セマキ

*当園の花園の万葉の花については万葉の花研究家片岡寧豊氏の講演会資料「旧河澄家の庭の草木と万葉の花たち」、片岡寧豊著「やまとと花の萬葉」(新星出版社)、東方出版「河内木綿」、万葉集「新編河内道 万葉の花・四季の花をよみに翻した」(青弓社 2020)による。

